

お知らせ

ファン付き作業服をフルハーネス型安全帯に対応し改良しました。

当社の配電線工事の現場では、酷暑期における作業現場の環境改善策の一環で、2017年から作業服に小型電動ファンを取り付けた「ファン付き作業服（以下、空調服）」を導入しています。今回、2022年から高所作業時に着用が義務付けられている「フルハーネス型安全帯（以下、ハーネス）」※1に対応させた改良型空調服※2を2020年6月に配電線工事の全ての現場へ配備しました。

※1 6.75m以上の高さ（建設業は5m）での作業において着用義務がある。 ※2 株式会社空調服との共同改良品

改良した空調服の特徴

特徴は、ハーネスを空調服の上に装着しても、従来品と同等の冷却機能を維持できる点です。ハーネスを空調服の下に装着する場合は、フロント部分に開いた穴からランヤード（ハーネスに取り付ける命綱）を通してハーネスにつなぐのですが、落下時にランヤードが空調服を引っ張り上げてしまい首が締まる恐れがありました。また、ハーネスの着脱の度に現場で空調服を脱ぐ必要があり、着脱に手間が掛かり非効率でした。これらの理由により、当社は空調服の上にハーネスを装着できる様に改良しました。

これまで当社で使用していた空調服の上にハーネスを装着すると、ハーネスのベルトで空調服の膨らみが押さえられ、空調服内の空気が循環せず冷却機能が低下しました。

そこで、肩と背中の上部にクッションを取り付けました。クッションで隙間を作ったことで腕の先まで空気が行き渡るようになりました。

当社では、今後も現場のニーズに合わせ、さまざまな取り組みを行います。



▲従来の空調服



肩と背中の上部にメッシュ状になったクッションを取り付けました



▲改良した空調服



快足通信

陸上競技部の活動を紹介します。

当社陸上競技部にとって今シーズンは、コロナ禍の影響により出場できる大会が少ないなど、厳しい状況となっています。陸上競技部の松浦監督に現在の練習状況や、今後の目標などを話してもらいました。

Q▶昨シーズンまでの振り返りを

ニューイヤー駅伝で当社の過去最高順位を更新できた他、服部弾馬選手の日本選手権5000m優勝および河合代二選手のMGC出場などよくやれたと思う部分もあれば、もっとやれたと感じる部分もあります。総括すれば、まだまだ道半ばといったところですね。

Q▶2020年は早々にコロナ禍が始まりましたが

練習が予定通り進みませんでした。選手には立ち止まっている場合ではないと伝えました。各自、今までと同様の環境で走れる時が来たらしっかり走れるように準備をさせました。いつもの練習場が使用できなかったため、ロード（公道）練習をとにかく積ませました。昨今の今頃より、ロード練習をこなしている分、マラソンや駅伝に強いチームになっていると思います。

Q▶ニューイヤー駅伝での目標は

15位以内を狙います！そのために必要なのは、確実性や安定感だと考えています。皆、（今年のニューイヤーで区間2位で走った）河合代二選手と同じ練習をしているので力はあるはずなのに、本番でその力を出せないレースがここ数年ニューイヤーで続いています。当社チームは、外国人選手はいませんが、チームの力としてはトップ10に入れるはず。河合選手のような安定感が各選手に出てくれば良い結果が出せるはず。



2020 Autumn
TOENEC NEWS
トエネック ニュース

トエネックニュースは年4回（1月・4月・7月・10月）発行です。



マスコットキャラクター「ながりん」

No.10

発行 〒460-0008 名古屋市中区栄1-20-31
株式会社トエネック 総務部 広報グループ
TEL 052-219-1906
ご意見・ご感想・お問い合わせなど お待ちしております。

本紙で紹介している
以外にも当社の最新
ニュースや施工実績を
HPでご覧いただけます。

！CHECK！



▲外観

■伊勢営業所について

- 住 所：三重県伊勢市小俣町本町341-262
- 電話番号：0596-28-7131 FAX番号：0596-23-1349
- 担当エリア：配電線工事：伊勢市・鳥羽市・度会郡 玉城町、南伊勢町（旧度会郡南島町）、度会町
一般得意先向け工事：南勢方面全域
- 従業員数：46名（2020年9月1日現在）
- 延べ床面積：事務所 1階 704.81㎡ 2階 703.29㎡
- 敷地面積：22500.03㎡

4月13日
伊勢営業所が完成
当社三重支店の伊勢営業所が完成し、このほど竣工式が行われました。同式典であいさつに立った池山三重支店長は「当営業所は災害復旧拠点として復旧の車両などが集まる上で、十分な広さを確保しており、地域においても、また、当社にとっても重要な事業場です。社業を通じて、地域の皆さまから信用・信頼していただき愛される事業場となるよう努めてまいります」と話しました。
同営業所は2020年5月1日から営業を開始しています。



6月16日
高校生を受け入れる

▲配電線工事の研修を見学する様子

愛知県総合工科高等学校の生徒10人を受け入れました。当日は、設備工事の現場で必要な資格や電気設備の基礎知識などについての講義を行い、続いて配電線工事や屋内線工事の研修の様子を紹介しました。
参加した生徒からは「現場では技術力の向上とともに、安全面も日々改善し続けていることを実感できました」などの感想がありました。

2021年3月期第1四半期決算短信
(2020年4月1日～2021年6月30日)

連結決算につきまして、電力会社向けの配電線工事は前年並みの水準でしたが、一般得意先向け工事は期首からの手持工事が順調に進捗し、増収となりました。
利益面では、売上高の増加により営業利益経常利益は増益となりましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前期に年金制度の見直しに伴う特別利益（15億9千7百万円）を計上していることから減益となりました。

■連結・個別経営成績(単位:百万円)

	2021年3月期第1四半期		2020年3月期第1四半期	
	連結	個別	連結	個別
売上高	49,386 (5.7%)	45,022 (5.2%)	46,742 (6.2%)	42,804 (9.1%)
営業利益	2,539 (18.1%)	2,088 (14.2%)	2,150 (288.1%)	1,828 (-)
経常利益	2,339 (19.2%)	2,037 (16.8%)	1,963 (317.7%)	1,743 (678.3%)
親会社株主に帰属する四半期純利益(個別は、四半期純利益)	1,496 (Δ36.6%)	1,368 (Δ39.0%)	2,361 (894.3%)	2,242 (-)

※百万円未満切捨て ※表示は対前年同四半期増減率(100%を超える場合「-」と記載)

令和2年7月豪雨の災害復旧

2020年7月に、記録的な大雨が各地に甚大な被害をもたらしました。当社は、一丸となって災害復旧にあたりました。



▲現場の様子。道路が川の様になっている

梅雨前線に暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、中部地方では7月7日から岐阜・長野の両県を中心に記録的な大雨となりました。この雨の影響により、当社の施工エリアでは、岐阜県の下呂市や高山市で河川の氾濫や土砂崩れが発生、長野県でも上高地につながる国道で土砂崩れが発生するなど、各地に甚大な被害をもたらしました。

当社の配電部門は、7月8日から災害復旧体制を敷き、岡崎・静岡・岐阜・長野の各支店で延べ848人が14日まで復旧作業にあたりました。



▲道路が崩落し根元がむき出しになった電柱を抜柱する様子

また、情報通信部門は、中部本部および静岡・岐阜支店から延べ143人を動員し岐阜県や長野県などで17日まで復旧作業にあたりました。

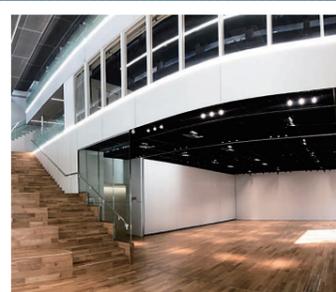
東京工芸大学6号館(本部棟)

テクノロジーとアートの融合を目指した先駆的な大学である東京工芸大学の中野キャンパスの、本部棟が2020年3月に完成しました。当社は、同施設の電気設備工事を施工しました。



施工メモ

同大学のキャンパス内には、ダンスや演劇向けに壁一面が鏡になった多目的室や、作品を展示するギャラリーなどさまざまな部屋があり、芸術教育の施設ならではの造りとなっています。各部屋の用途に合わせてさまざまな電気設備を設置しました。例えば、ギャラリーの作品展示スペースには、作品を照らす狭角スポットライトと、部屋全体を照らす広角スポットライト合わせて120台を設置し、さらに床面の照度を確保するため、広角スポットライトの



▲エントランス

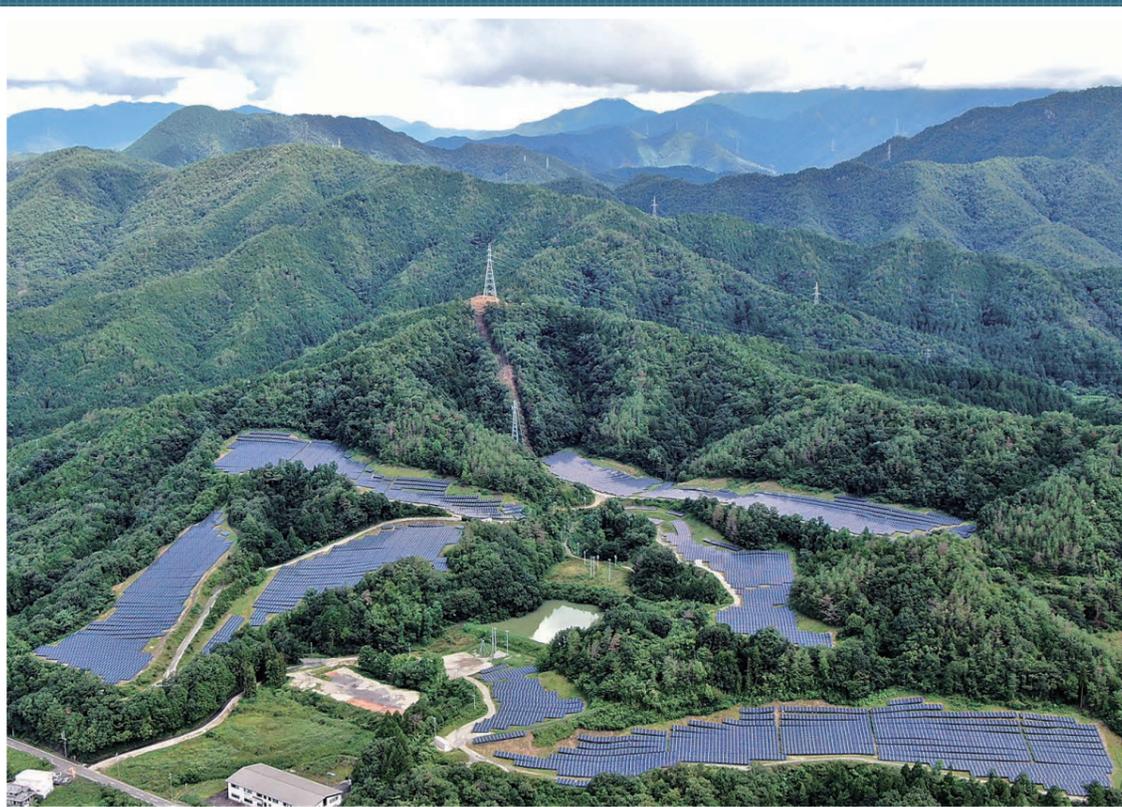
光を補うハウジングライトを70台設置しました。また、ギャラリーは、可動式の間切により部屋を4分割できたため、展示スペースのレイアウト、展示する作品、展示場所および展示方法などさまざまな条件に合わせて調光や調色が可能な照明制御システムを導入しました。

施工概要

- 工事場所 東京都中野区弥生町1-10
- 工期 2019年3月18日～2020年3月19日

関市さくらメガソーラー発電所

岐阜県関市の山中にあるゴルフ場の跡地に建設された、関市さくらメガソーラー発電所(最大発電容量8,390kW)が今年の6月に完成しました。当社は、同発電所の建設工事を行いました。



▲特高変電所の端末作業(当社の地中線路が担当)の様子



▲架空配線で送電ルート为建设する様子

今回の工事は、特高および高圧の配電線を全て架空配線にした点特徴です。電力会社の電力系統と接続する連系点が山の奥にあつたため、連系点の近くに特高开閉所を設置し、そこから約0.5km下つた場所に特高変電所を設置しました。そのため特高开閉所と特高変電所の間約0.5kmの距離を結ぶ送電線(77kVケーブル)を設けることになりました。計画では送電線の敷設を地中配線で行う予定でしたが、地質などの理由から最短ルートを確認できず、大きく迂回ルートを設定する必要がありました。そこで、当社の得意とする架空配線ルートでの敷設を行いました。架空配線で行うことにより、地質などの影響を受けずに最短ルートが確保できたため、試算上は、地中配線でルートを建設する場合に比べ約35%のコストダウンが可能となりました。さらに将来この事業が終了し設備を撤去する際の撤去コストも約30%ダウンできると試算しています。しかし、架空配線にした場合、電柱により太陽光パネルに陰ができてしまう問題点がありました。そこで建柱場所の選定にあたり、何度も現場を調査し、電柱の高さと日照角度などから太陽光パネルへの影響が最も少なくなる建柱位置を割り出すとともに、十分な日照を確保できるようパネルの向きも十分に検討し、日照問題を解決しました。



▲発電所内に電柱が建てられた様子

施工概要

- 工事場所 岐阜県関市武芸川町八幡地内
- 工期 2018年6月30日～2020年6月30日